

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月26日

事業所名 まいるーむ放課後こども教室ジャンプ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			密にならないよう間隔を空けるなどの工夫をしている
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			移転により2階の上がること以外はバリアフリー化し改善された。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			定期的な会議を行い進捗管理を行っている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		早めの声掛けで回収率を上げている。	短期的に改善できることは早期に解決できるように取り組んでいる
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者の評価は受けていないが今後、検討していく外部講師に委託することを検討する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンライン研修の実施	全体での対面研修もコロナの状況を鑑みて行なっている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			3ヶ月単位で活動を企画し、計画的に行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			プログラム内容の変更して支援の工夫をしている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			感染対策を行いできる色んな支援を心掛けた
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		利用児童の課題を把握し活動を企画している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			非常勤の方が午後からの勤務となる場合などは引き継げるよう配慮している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		終礼ノートでの情報共有と引き継ぎ	ラインやオンラインを通してスムーズな情報共有を行えるようにした
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○		保護者や施設内でも時間や日程を決めて行なっていく必要がある
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			出来る範囲で社会参加できる支援に取り組んだ
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			連絡帳や保護者を交えて情報交換を行えるよう工夫している

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアが必要な子どもの利用が現在はありません。利用があれば連絡体制を整えます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		同一法人の児童発達支援事業所と連携を取りながら情報共有しています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		口頭での引き継ぎ、申し送りとなっている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		コロナのため他施設や施設外との交流は最小限となっている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		市町村で開かれる会議、協議会へは積極的に参加している
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時にコミュニケーションを取るようになっている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		コロナ禍で活動出来ていない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者面談を行ない支援方法や進路の方向性を共有している
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		過去には開催していたがコロナの影響で自粛している
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		社内SNSを活用し取り組み、活動を発信している
	35	個人情報に十分注意している	○		個別アカウントの制限や退職時の対応などを徹底
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		感染症マニュアルについてはブラッシュアップが必要である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		テナントと協力して定期的に行なっている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		外部講師から虐待についての講習会を定期的に開催している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		一定の職員にのみ周知されていることがあるので施設全体での情報共有が必要である。研修を通じて行なっていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーの有無は確認と周知している。医師の診断書に基づく対応は保護者からの要望に応じて行なっている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事業所での会議で報告するなど危機意識を高めていく